

# DMS P/FU (DWIDP) JICA 便り

ネパール自然災害軽減支援プロジェクト・フォローアップ (水資源省治水砂防局)

No. 18 / 2006 . 2 . 28

こちらネパールでは2月3日はバサンタ・パンチャミ(Basanta Panchami)という祝日でしたが、これは春のはじめの日という意味とのことで、その名のとおり2月初旬から急速に暖かくなっています。また雨が少ないため街のダストは多く感じます。晴れてはいますがカトマンズ市街からはヒマラヤの山々の姿はこのところ見ることは出来ません。

治安状況については、2月8日(水)に全国58市の市長等の地方選挙が実施され、それ



選挙前日、装甲車による厳重な警戒下の市街地、DWIDP から JICA 事務所への途上(バタン市)

を妨害するためのマオイストによる1週間連続のバンダ(強制交通等ゼネスト)が2月5日(日)から宣言され日常生活への支障が出ました。選挙については政府側の厳重な警戒もありカトマンズ盆地では大きな混乱等なく終了しましたが、地方においては国軍兵士が政党のデモ隊に対して発砲し2名の死者が出ています。投票率は全国平均で20%程度となり、政府は選挙の成功、主要政党とマオイストは選挙の失敗と発表しています。バンダについては選挙失敗

を導けたとして9日からは解除されました。その後、マオイストによる爆弾設置、治安部隊との衝突等はカトマンズ盆地内および地方において発生しています。またマオイスト等は3月中旬からのバンダ、カトマンズ盆地・郡庁等所在地へのプロクェード(ハイウェイ等の通行規制による経済封鎖) また4月初旬からは政府機関も含めたバンダを発表しており、業務・生活への支障が懸念されます。

我々専門家は安全に十分注意を払いつつ、ネパールの災害の軽減を図り、災害で苦しむ人々が少なくなることを願って今後とも活動を続けていきたいと思ひます。

チャングナラヤン及びバグマティ川バルク地区の現地調査を実施しました

## チャングナラヤン現地調査

2月16日、公共事業計画省チャングナラヤン事務所(Special Physical and Infrastructure Area Development Project, Changu Narayan Office)から依頼を受け現地調査を実施しました。チャングナラヤンはカトマンズ盆地東部に位置する由緒ある史跡で世界遺産にも登録されています。DWIDP からプラダハン副局長、砂防課のトラダール(Dr.R.M.Tuladhar)課長(地すべり課課長も兼任)、砂防課パウデル(Mr.G.Paudel)技師、そして武士・



中川両専門家が参加しました。チャングナラヤンの寺院は岩が露出する丘の上に築かれており、その丘の周辺部での土砂流出の現場を事務所のマハト（Mr.D.Mahato）所長に案内



被災している既設ダム

していただきました。現地は崩積土が侵食を受けているもので、チェックダムが数基設置されています。既設ダムは概ね良く効果を発揮しており、同様なチェックダムを増設することで対応可能と判断されました。既設ダムは被災されているものも見られたため、設置にあたっては前庭部の保護対策を十分することと指導しました。

### バグマティ川バルク地区現地調査

カトマンズ盆地内には、リング・ロードと呼ばれる外周道路があります。今回は、この外周道路にとっては南西にある、バグマティ川を渡るバルク橋の下流約1Kmにある災害現場を2月14日に踏査しました。武士・中川両専門家と第四地方事務所のミシュラ技師（Mr.V.S.Mishra）が同行し、現地にて前区長のタパマガル（Mr.R.ThapaMagar）氏と会い、説明を受け意見交換をしました。



第4事務所設置の護岸の確認

現状は、本川と支川合流点で左岸下流側の自然堤防が浸食され、新設公園に影響が出始めている状況でした。“災害防除”と“災害復旧”との事業の違いを現地にて説明し理解を得られる事が出来ました。又、自然河川に人工構造物を設置すると広範囲に影響する事、その設計・施工には細心の注意が必要であり、経験的知見の育成が大事である事等を具体的に話し合うことが出来ました。



支川合流点付近の状況

### 主な出来事・トピック

#### カウンターパート研修帰国報告会が開催されました

2月24日にDWIDPのセミナーホールにて、カウンターパート本邦研修の帰国報告会が行われ、砂防課のパウデル（Mr.G.Paudel）技師から報告がありました。今回のC/P研修は地すべり解析（Analysis of Landslide Mechanism）の科目について、昨年11月23日から12月24日までの1ヶ月間、日本の関係機関において当該技術を学んだものです。パウデル技師からの現地視察・演習等の報告を聞き、質疑をするなかで研修内容を良く理解していること及び、大変貴重な経験となったことが分かりました。



報告するパウデル技師

今回のC/P研修では関係機関の皆様にはお忙しい中、大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

フォローアップ活動を進めています

### バグマティ川地すべりモデルサイトの工事・調査を実施しています

バグマティ川の地すべりモデルサイトであるブンガマティ地区においては対策工の実施とその効果の確認を実施しています。今回、下流側ブロックのうち北側小ブロックの表面排水工の工事を開始しました。またチャルナケル地区においては、今年度の地すべり調査として、移動杭調査、電気探査、測量等を実施しています。2月23日に、JICA事務所の徳田所員と武士・中川両専門家、そしてDWIDPのトラダール地すべり課課長はじめ地すべり課の技師、工事監督官によってモデルサイトの現地踏査を行いました。ブンガマティ地区においては乾季にもかかわらず地表の水分が多い北側小ブロックの状況と排水工工事の様子を見るとともに、今年度に排水工の工事を完成させた南側小ブロックにおいて、排水工の効果を確認しました。またチャルナケル地区においては測量等が実施されているなか、現地状況の確認を行いました。



ブンガマティ地区



チャルナケル地区

### バクタプール市チャマシン地区の災害現場の踏査を行いました

災害現場踏査は国内状態が不安定なため制限されており、現在は比較的安定しているカトマンズ盆地内 No.4 事務所の、地元から要望のある災害復旧現場を対象に調査実務を進めています。2月17日にはバクタプール市チャマシン(Chyamasing)地区の現場を JICA 事務所徳田所員同行のもと中川専門家、No.4 事務所チョダリ(Mr.A.K.Chaudhari)所長、ミシュ



チャマシン地区

ラ(V.S.Mishra)技師らで踏査しました。現地では徳田所員の熱心な質問に事務所スタッフが応えていました。その後、事務所にて Work Shop の作業手順や今後の事務進行の手続きを打ち合わせました。チョダリ所長からは熱心に事業採択が要望され、徳田所員からは事業は技術援助を具体的に成就する手段として企画される物であると言う事を理解する様にとの意見が述べられました。

千客万来

2月21日、日本工営(株)コンサルタント海外カンパニー都市環境部の蔦英夫氏が来所されました。氏は2004年6月~8月末までの約3ヶ月間、DMSPプロジェクトの洪水被害軽減の短期専門家として在籍されプロジェクトの最終段階で協力いただきました。今回はカトマンズ廃棄物管理開発調査のため2月19日~3月18日まで滞在の予定とのことです。



蔦氏(左)

## ヘイハチローの「ナマステ、ネパール」コーナー

( 還暦を過ぎて、初めての海外、厳しい環境のネパールで技術協力・生活に取り組む「中川平八郎専門家」の「眼」で見た「ネパール」を紹介するコーナーです。)

丸一年が過ぎました

今年の“2月3日”は、この国の“大大吉日”と言う事でした。この日は、占い師に御呪いをしてもらわなくても、全国的に何かにつけてやっても良い日だそうです。結婚式は勿論、一族の集まり(法事等)も行事を執り行うのには一番だそうです。何かホッとする日でありました。

1月中旬からから2月中旬にかけては、政府と党派等による両方から普通の人に(無視すると報復するぞと言う)“行動制限”が頻繁に掛かりました。日本では経験できない事です。一方、地方では政府軍とマオ派の戦闘が随所であり、沢山の若者が逝ったと言う報道がされています。この国の若者は、Gorkha(グルカ)兵になる事を願うと言う環境に育まれていると言う事ですが、それにしても街角で小銃を携帯する黒い瞳の若い兵士のパトロール集団に会うと、哀しい思いがします。彼らは今一番人生の大切な時に、破壊する事を目的とする銃を扱う事を覚え、製作するという事を習得していないのです。何年か後に彼らはどの様にして生きてゆくのかとしみじみ思われます。指導者はその立場が如何に重たいものか知る必要が在りますが、その指導者に委ねる側にも重たい選択がある事を知っている事が大切だと思われます。

“ハッシュ・ハウス・ハリヤース(<http://www.aponarch.com./hhhh/>)”という集まりに行ってきた。土曜日の午後2時に指定された場所に集合し、2時間ほど山野をハイキングした後は参加者でビールを飲んで歓談し散会という集まりです。参加費は一人Rs.250。横浜や神戸にも此の種の集まりが在ると言う事です。茶色・黄色・白色・黒っぽい色と皮膚の色が違う人々が英語と言う共通語を道具に話します。英国人のリーダーが解らない言葉でまくし立てます。小生はつれ合いと二人、貧弱な英語を使って仲間に入ります。“ノー・プロブレム!”でしたな。解らない事は解らんと返事を気軽にすると、もっと仲良くなれると云う事を知った一日でした。



長く続く政情不安は、この国の人々に躁鬱の精神障害を最近富に与え始めていると言う事です。この話を聞いて、この国で生活するハリヤースの参加者も又、自国の精神風土を基にして色々な経験をしていると感じて居いるのかも知れないと思いました。

編集責任者：武士俊也、長期専門家：中川平八郎

電話：+977-1-5535502 Fax：同-5523528 E-mail：[dmspfu@wlink.com.np](mailto:dmspfu@wlink.com.np) URL：<http://www.dwidp.org>